

## ナホトカ号重油流出事故の海岸域への影響調査(速報)

平成9年1月2日に島根県隠岐島沖で沈没したロシア船籍タンカー「ナホトカ」号から、大量のC重油が流出しました。流出した油の一部は、日本海沿岸の7府県(新潟県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県)の海岸に漂着しました。重油が漂着した海岸では、地元住民やボランティア、地方自治体等により油の回収が行われましたが、油の漂着及び残留による環境への影響が懸念されています。

表-1のように、回収作業後の油の残留状況は、(1)砂浜海岸、(2)玉石海岸、(3)巨礫海岸、(4)岩礁性海岸の4タイプに分類することができます。ただし、いずれの海岸でも油の付着は波の打ち上げ線付近に集中し、汀線付近ではほとんど見られませんでした。

本報告では、平成9年1~2月に行った石川県から鳥取県に到る海岸での現地踏査の結果を、海岸のタイプ別に御紹介します。

表-1 回収作業後の油の残留状況

砂浜海岸	砂浜上に数 cm 程度の油塊が見られる。また、砂層内に油塊が見られる海岸もある。
玉石海岸	玉石の表面や玉石間の空隙に油が付着している。
巨礫海岸	巨礫の表面や巨礫間の空隙に油が付着している。重油の打ち上げ高は玉石海岸より少し高めである。
岩礁性海岸	岩礁のくぼみや突出部に油が付着している。海水が高波浪時のみ出入りする、少し標高の高いくぼみの方がより多く付着している。



写真-1 事故直後は直径数10cmの油塊が打ち上がったが、その後は直径数cm程度の油塊が間欠的に打ち上がった。油塊は波の打ち上げ線付近に帯状に分布していた。(福井県三国町浜地海岸)



写真-2 砂浜を掘削すると、直径数10cmの油塊がある層が見られる。漂着後の海岸変形により砂が堆積したためと考えられる。(福井県三国町浜地海岸)



写真-3 玉石海岸でも油塊の付着は波の打ち上げ線付近に集中していた。(石川県羽咋市滝崎)



写真-4 回収作業後も玉石の表面には油の付着が見られる。(石川県羽咋市滝崎)

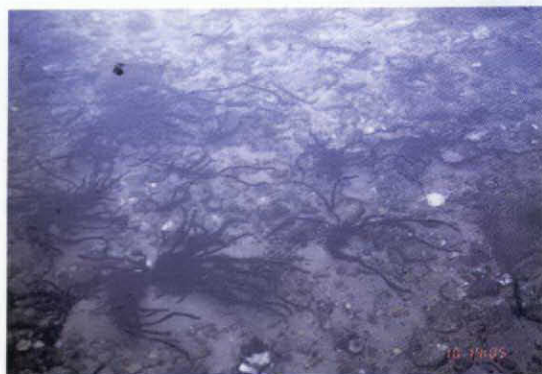


写真-5 汀線付近の海中には油の付着がなく、海藻が生息している。(石川県羽咋市滝崎)



写真-8 汀線付近では油の付着が見られない。(石川県珠洲市長橋)



写真-6 巨礫海岸でも波の打ち上げ線付近に油の付着が集中していた。(石川県珠洲市長橋)



写真-9 岩の頂部に油塊があるが、汀線付近には海藻が見られる。(石川県志賀町)



写真-7 巨礫の隙間に油塊が入り込んでいる。(石川県珠洲市長橋)

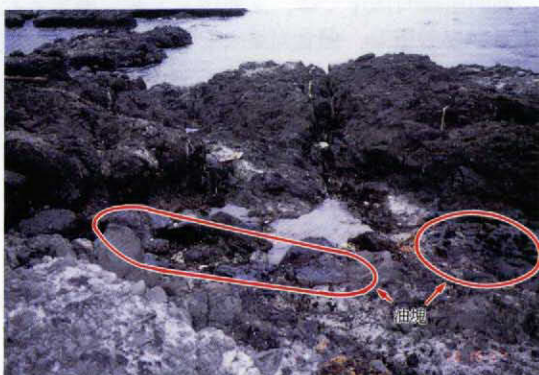


写真-10 岩上のタイドプールの周囲に油塊が付着している。(石川県志賀町)